

0.1 H11 数学必修

[1] (1) $E_{ij} \in M_n(\mathbb{C})$ を (i, j) 成分が 1 で他が 0 の行列とする. $\{E_{ij} \mid 1 \leq i \leq n, 1 \leq j \leq n\}$ は $M_n(\mathbb{C})$ の基底である.

$X = (x_{ij}) \in M_n(\mathbb{C})$ に対して $X = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n x_{ij} E_{ij}$ と表せる.

(2) $X = (x_{ij}), Y = (y_{ij}) \in \ker f, c, d \in \mathbb{C}$ に対して $f(cX + dY) = \sum_{i=1}^n cx_{ii} + dy_{ii} = c \sum_{i=1}^n x_{ii} + d \sum_{i=1}^n y_{ii} = cf(X) + df(Y)$. より $\ker f$ は部分ベクトル空間.

$F_i = (f_{ij}) \in M_n(\mathbb{C})$ ($1 \leq i < n$) を (i, i) 成分が 1 で (n, n) 成分が -1 で他が 0 の行列とする. $B = \{E_{ij} \mid 1 \leq i \leq n, 1 \leq j \leq n, i \neq j\} \cup \{F_i \mid 1 \leq i < n\}$ は基底である. 一次独立性はあきらめ、 $X \in \ker f$ に対して $f(X) = 0$ より $X = \sum_{i=1}^n x_{ij} = 0$ であるから $x_n = -\sum_{i=1}^{n-1} x_i$ である.

よって $X = \sum_{1 \leq i, j \leq n, i \neq j} x_{ij} E_{ij} + \sum_{1 \leq i < n} x_i F_i$ と表せる. 次元は $n^2 - 1$

(3) $g(E_{ij}) = a_{ji}$ とする. $A = (a_{ji})$ とすると $g(X) = \sum_{i,j} a_{ji} x_{ij} = \sum_{j=1}^n \sum_{i=1}^n a_{ji} x_{ij} = \text{Tr}(AX)$.

[2] (1) 平均値の定理から $f(x_1) - f(x_2) = (x_1 - x_2)f'(c)$ となる $c \in (x_1, x_2)$ が存在する. よって $|f(x_1) - f(x_2)| = |x_1 - x_2||f'(c)| \leq M|x_1 - x_2|$ である.

(2) $x_1 = x_2$ のとき $g: [y_1, y_2] \rightarrow \mathbb{R}$ を $g(t) = f(x_1, t)$ とする. g は C^1 級で $\frac{dg}{dt}|_t = \frac{\partial f}{\partial y}|_{(x_1, t)}$ である. よって $|\frac{dg}{dt}| = |\frac{\partial f}{\partial y}| \leq M^2$ である. (1) より $|f(x_1, y_1) - f(x_2, y_2)| \leq M^2|y_1 - y_2| = M^2\sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2}$ である.

$x_1 \neq x_2$ のとき, $\tan \theta = (y_2 - y_1)/(x_2 - x_1), -\pi/2 < \theta < \pi/2$ とする. $z: [0, \sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2}] \rightarrow \mathbb{R}^2; t \mapsto (t \cos \theta + x_1, t \sin \theta + y_1)$ とする. z は明らかに C^1 級である. $\frac{\partial f \circ z}{\partial t}|_t = \cos \theta \frac{\partial f}{\partial x}|_{z(t)} + \sin \theta \frac{\partial f}{\partial y}|_{z(t)}$ である.

$|\frac{\partial f \circ z}{\partial t}| = |\cos \theta \frac{\partial f}{\partial x} + \sin \theta \frac{\partial f}{\partial y}| \leq |\frac{\partial f}{\partial x}| + |\frac{\partial f}{\partial y}|$ である.

$|\frac{\partial f}{\partial x}| \leq 1 + |\frac{\partial f}{\partial x}|^2$ であるから, $|\frac{\partial f \circ z}{\partial t}| \leq 2 + |\frac{\partial f}{\partial x}|^2 + |\frac{\partial f}{\partial y}|^2 \leq 2 + M^2$ である.

(1) より $|f(x_1, y_1) - f(x_2, y_2)| = |f \circ z(0) - f \circ z(\sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2})| \leq (2 + M^2)\sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2}$ である.

[3] (1) G/H の完全代表系 $X = \{g_1, \dots, g_n\}$ を一つ固定する. $g_1 \in H$ として一般性を失わない.

$g \in G, g_i \in X$ に対して $g \cdot g_i \in [g_j]$ となる j がただ一つ存在する. これを $j = \sigma_g(i)$ と書くことにする. このとき σ_g は $\{1, \dots, n\}$ の置換である.

$f: G \rightarrow S_n$ を $f(g) = \sigma_g$ とする. $gg'g_i = g[g_{\sigma_{g'}(i)}] = [g_{\sigma_g(\sigma_{g'}(i))}]$ であるから $\sigma_{gg'} = \sigma_g \sigma_{g'}$ である. よって f は群準同型である.

$g \in \ker f$ について $g \cdot g_1 \in [g_1]$ より $h \in H$ をもちいて, $gg_1 = g_1 h$ とできる. よって $g = g_1 h g_1^{-1} \in H$ より $\ker f \subset H$ である.

(2)(1) で完全代表系を固定したが, f の定め方は完全代表系によらない. これを示す. $X' = \{g'_1, \dots, g'_n\}$ を別の完全代表系とする. ただし $[g_i] = [g'_i] \in G/H$ として一般性を失わない. このとき $g_i = g'_i h_i$ となる $h_i \in H$ がただ一つ存在する.

$g \in G$ に対して $gg'_i = gg_i h_i = g_{\sigma_g(i)} h_i = g'_{\sigma_g(i)} h_{\sigma_g(i)} h_i \in [g'_{\sigma_g(i)}]$ より σ_g が完全代表系の取り方に依らないことを示せた.

G の指数 n の部分群 H, H' について $H \neq H'$ とする. ある $g \in G$ に対して G/H を考えることで定まる σ_g と G/H' を考えることで定まる σ'_g が異なることを示す. $h \in H \setminus H'$ とする $\sigma_h(1) = 1, \sigma'_h(1) \neq 1$ である. よって $\sigma_h \neq \sigma'_h$ である.

すなわち $H \neq H'$ ならば $f \neq f'$ である. (f' は (1) より H' に対して存在する写像.)

$\text{hom}(G, S_n)$ は G が有限生成であることから有限集合なので, 指数 n の部分群も有限.

$$\boxed{4} \quad (1) \quad f: (0, 1) \rightarrow [0, 1]; x \mapsto \begin{cases} 1 & (x = 1/2) \\ 0 & (x = 1/3) \\ 1/(n-2) & (x = 1/n, n \geq 4) \\ x & (\text{otherwise}) \end{cases} \quad \text{とすると } f \text{ は全単射である.}$$

(2) $(0, 1)$ の開被覆として $\{(0, 1 - 1/n) \mid n = 2, 3, \dots\}$ を考えるとこれは有限部分被覆をもたないから $(0, 1)$ はコンパクトでない.

$[0, 1]$ は有界閉集合だからコンパクトである.

同相ならコンパクト性は保たれるから同相でない.